早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書（Web 公開用）

申請者（ふりがな）	長沼　千夏　　（　ながぬま　ちなつ　）
所属・資格（※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載）	人間科学研究科　修士課程 1 年
発表年月 または事業開催年月	2023 年　7 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	日本ストレスマネジメント学会第 21 回学術学会・研修会
発表者（※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること）	長沼千夏・成田めぐみ・西中宏吏・嶋田洋徳
発表題目（※学会発表の場合のみ記載）	児童青年期の注意欠如・多動症における二次障害を踏まえた認知行動療法の介入効果の文献検討

発表の概要と成果（抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。）

【目的】

本論考では，児童青年期の ADHD に対する CBT の手続きとその効果を二次障害の観点を踏まえて概観し，支援の有効性を検討することを目的とした。

【方法】

児童青年期の ADHD に対して CBT が行われている学術論文を対象とした。適格基準としては (a) 支援対象者が ADHD の児童青年自身であること，(b) CBT が用いられていること，(c) 介入標的に適応に関する変数が含まれていること，(d) 介入標的に二次障害に関する変数が含まれていること (e) 学術論文であること (f) 研究デザインがランダム化比較試験または比較対象研究であることを設定した。論文検索には「PsycINFO」を用いて電子検索を行い（2023 年 5 月 12 日時点），検索ワードとしては，「adhd or attention deficit hyperactivity disorder AND cognitive behavioral therapy or cbt AND children or adolescents or youth or child or teenager」を用いた。

利益相反開示：演題発表に関連し、開示すべき COI 関係にある企業などはありません。

【結果・考察】

抽出された論文は 12 編であった。ADHD 症状と内在化障害に対しては，学習したスキルを日常生活に般化させることを目的とした親子への介入によって，スキルの獲得が促進されることが示された。ADHD 症状と外在化障害に対しては，本人に対する弁証的行動療法や VR の注意制御訓練と認知再構成で効果があり，いずれも家族とは独立して行なわれていた。一方，児童青年とその親にマインドフルネスを適用した例においては，親に効果があった場合に子どもにも効果が見られた。

本論考の結果から，児童青年期の ADHD に対する支援においては，二次障害の症状に応じて異なる介入方法の工夫を用いることによって，支援の有効性を高めることが示唆された。また，外在化障害に対する介入において，家族の介入の効果が見られなかった原因には，外在化障害を併発する ADHD の特徴とされる身近な家族等に対する反抗的的態度の影響が考えられる。このことから，外在化障害を有する ADHD の児童青年の家族に対しては，スキルの般化のための関わりではなく，ありのままを受け止める存在としての機能的な関わりを促す介入であれば，効果が見られる可能性が示唆された。

※無断転載禁止